

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年4月6日

研究・研修課題名	放射線治療専門放射線技師 認定セミナーの受講と認定更新
研究・研修組織名（所属）	放射線部
研究・研修責任者名（所属）	宮原善徳（放射線部）
共同研究・研修者名（所属）	

目的及び方法、成果の内容

①目 的

日本放射線治療専門放射線技師認定機構(日本腫瘍学会、日本放射線技術学会、日本放射線技師会)が認定する放射線治療専門放射線技師資格の更新において、認定単位取得のための日本放射線治療専門放射線技師認定機構 認定教育セミナーを受講し、認定を更新する。

②方 法

平成21年10月に認定を取得し本年が更新年である。認定単位取得にあたり、日本放射線治療専門放射線技師認定機構 認定教育セミナーの受講は5年間に一度の出席が必須とされている。その認定セミナーの放射線治療概論、放射線治療技術、放射線計測(X線、電子線)、品質保証・品質管理、放射線看護、リスクマネジメント、放射線安全管理を受講し認定を更新する。

③成 果

平成26年8月30日に認定を更新するため、日本放射線治療専門放射線技師認定機構 認定教育セミナーを受講した。放射線治療概論では放射線治療における生物学（生物学的効果）、正常組織の耐容線量、有害事象から治療適応と治療方針まで幅広く講義を受けた。近年の医学、医療技術の進歩により治療の選択肢が広がり、治療方針の決定や患者様への説明には十分な知識が必要であり講義の重要性を認識した。また放射線計測学ではX線、電子線それぞれについて行われ、X線では空洞電離箱を用いた測定の基本から、加速器モニタ線量計の評価と校正、吸収線量評価、放射線治療計画におけるモニタ単位数の計算までの講義があり、特に測定に寄与する物理的因子、補正係数の算出など、線量測定の重要性を理解した。また、電子線においても、X線とは使用する電離箱線量計が異なることの説明、測定手順、補正係数の算出等の基礎から吸収線量測定までの講義であった。当院でも線量測定では診療放射線技師が行う業務であるため、正確性が最も要求されるため、QA, QCも含め今後の業務に活用しなければならないと考える。

放射線看護においては放射線治療を行う小児から高齢者まですべての患者様の不安、苦痛についても診療放射線技師は積極的に関与し、より最適な患者ケアが実施されるように努力しなければならない。また、放射線治療中に伴う症状の理解、感染の防止など当院においても改善しなければならない事項があると感じた。

リスクマネジメントについては放射線治療の分野だけでなく、医療全般に関わる問題であり、医療事故を予防するためには、リスクの把握、分析、処理の段階でそれぞれのシステムを細部まで構築する必要がある、医療事故防止にむけて、カンファレンス等で積極的に取り組まなければならないと考

える。

以上のように講義では放射線治療に関する基礎知識から最新技術まで、また看護やリスクマネジメント等も習得し、当院で稼動している新型治療機器での治療技術の向上にむけ業務に活用したい。

認定更新

* 日本放射線治療専門放射線技師認定機構

放射線治療専門放射線技師認定証書 受領済 【2014年10月1日】